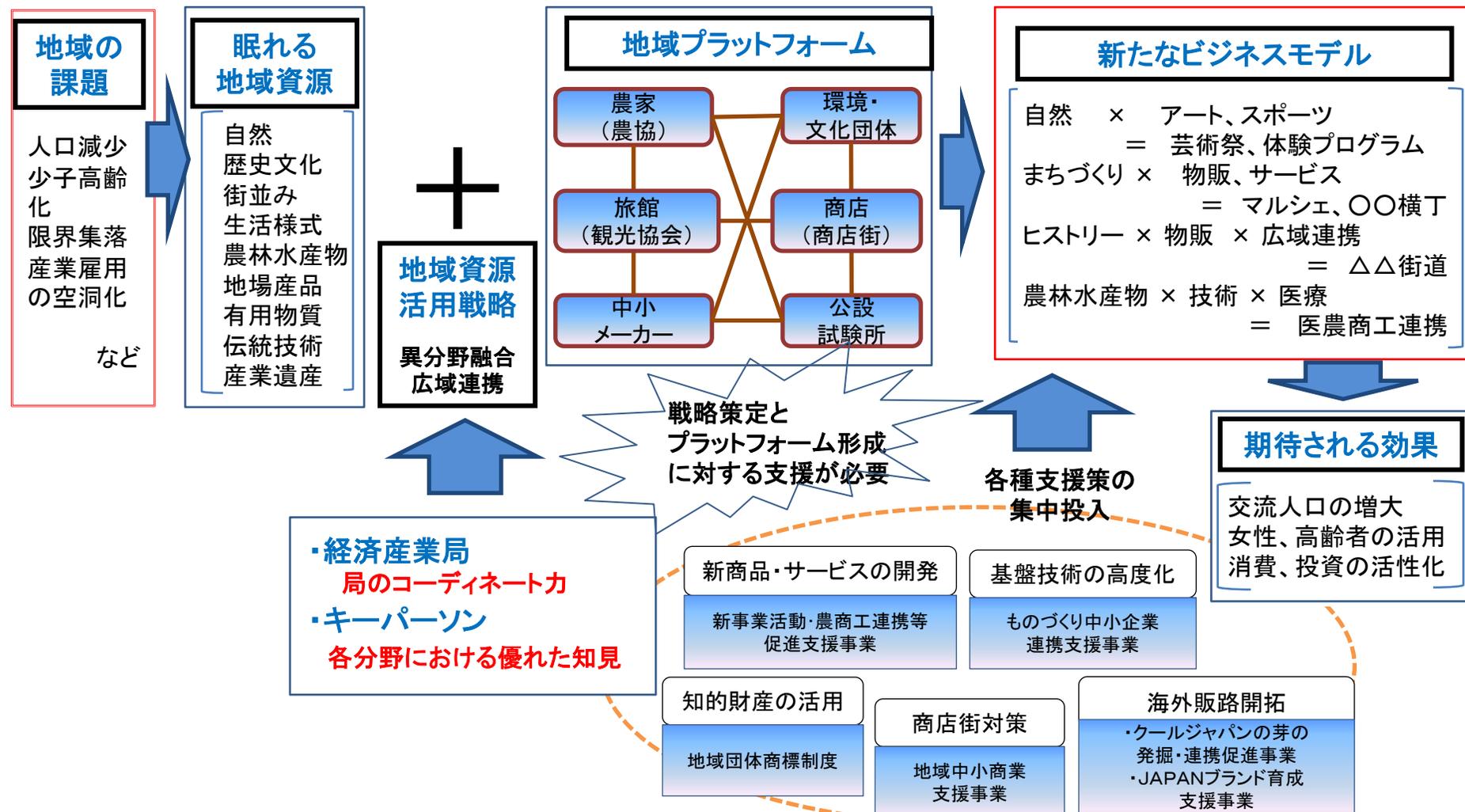


地域資源の活用施策の概要

地域資源を活用した新たなビジネスモデルの構築

- 我が国地域経済は、人口減少と円高デフレ経済の影響により、産業と雇用が空洞化し、著しく衰退。
- このため、眠れる地域資源を掘り起こし、それらを融合・ネットワーク化した新たなビジネスモデルの構築により、交流人口を増大し、地域経済の活性化を図る。
- 具体的には、経産局が主導して、異分野のメンバーからなる地域プラットフォームを形成し、地域資源活用戦略を策定。各種施策を活用して面的な広がりを持つ地域発の新事業を創出。



- ◎紀元前、不老長寿の果実とされた「橘」の実を大陸から持ち帰り、菓祖として祀られている「田道間守(たじまもり)」にまつわる各地域の伝承を基に、神社仏閣と菓子文化をつなぎ合わせる街道を形成し、世界的な観光ルートを目指す。 **【インバウンド】**
- ◎「橘街道」ブランドの菓子等商品開発を行い、大手百貨店で販売するとともに、仏パリのマルシェやレストラン等での販売を目指す。 **【アウトバウンド】**
- ◎近畿経済産業局がリードし、橘や菓子を活用して地域おこしを図る自治体や、クールジャパン事業者等関係者のネットワークを形成。 **【地域活性化】**

地域資源活用ネットワーク

【生産者】

- ・紀州和歌山的場農園(和歌山県)
- ・尼ヶ辻フィールド(奈良県)
- ・茶農家(京都府)
- ・農業生産法人(株)Teams
- ・芦田農園(兵庫県) 他

【食品関連産業】

- ・ル・パティシエミキ(和歌山県)
- ・本家菊屋(奈良県)
- ・神戸風月堂(兵庫県)
- ・(有)サリーズ(京都府)
- ・大阪市内大手百貨店(大阪府) 他

【観光・鉄道等】

- ・福知山商店街
- ・近畿日本鉄道
- ・京福電気鉄道
- ・ホテル・ホリデーホーム 他

【自治体】

- ・兵庫県豊岡市
- ・京都府福知山市
- ・奈良県大和郡山市
- ・奈良県明日香村



近畿経済産業局

- ・地域資源を発掘し、地域おこしをリード
- ・地域のキーパーソンをつなぎあわせるコーディネート力

キーパーソン 榎田 竜路 氏 (映像メディアプロデューサー)

- ・日本を代表する映像メディアプロデューサーが、共通ロゴと映像を作成

【課題】

- ・参加者の協議の場
- ・事務局体制 **が必要**

- ・コンセプトの整理、ネットワーク参加者の利害調整、広報普及戦略 **が必要**

- ・このため、ネットワーク参加者による協議会 **が必要**

→総合プロデューサーを配置し、総合的な事業化体制 **が必要**

橘やお菓子にまつわる神社
・名所と各地の代表的なお菓子(橘街道)

兵庫県:橘のしずく
(パティシエ・アシユカトウ)

京都府:福知山のスイーツ

中嶋神社 田道間守命を主祭神とし、天満河原神(あめのつむぎのたののみ)を祀る。田道間守命は天日孫命の3世の子孫で、「日本書紀」に記される聖仁天皇の命により常世の国から「非時香果(ときじくのくのみ)」(橘のこ)を持ち返ったとされる人物である。橘は菓子の最上級品とされたことから、菓子の神・菓祖として崇敬される。【兵庫県豊岡市】

兵庫県:コーフル(神戸風月堂)

奈良県:御城之口餅(本家菊屋)

兵庫県:フルーツフルロール(アンテナール)

大阪府:練羊羹(鞍馬屋)

橘本神社 元は現在の北の「六本樹の丘」に鎮座していた。六本樹の丘は田道間守が常世の国から持ち帰った橘の水を最初に植えた地と伝えられる。創建の年代は不詳であるが、永享9年(1437年)とされた神社の棟札が残っている。

和歌山県:ミカンの紀婦人(ル・パティシエ ミキ)

橘寺 奈良県吉野郡明日香村にある天台宗の寺院。正式には「仏頭山上宮皇宮寺」と称し、本尊は聖徳太子(高麗僧侶)。橘寺という名は、聖仁天皇の命により不老不死の果物を取りに行った田道間守が持ち帰った橘の蜜を納めたことに出発する。【奈良県明日香村】

垂仁天皇陵 同陵は奈良県奈良市尼辻西町の宝来山古墳(前方後円墳、全長227m)に比定される。現在の宝来山古墳の濠の中、南東に田道間守の墓とされる小鳥がある。【奈良県奈良市】

廣瀬大社 鎮座地は、高田川と一緒にあった菅我川、大和川・飛鳥川(など奈良盆地を流れる河川)のほとりどが合流する地点であり、このことから水神を祭る。社伝では、崇神天皇9年、広瀬の河合の里長・廣瀬臣孫時に託宣があり、水足地と呼ばれる沼地が一夜で陸地に変化し橘が数多く生えたことが天皇に伝わり、その地に大神として祀られることになったのに始まるとしている。【奈良県北葛城郡】

えちごつまり

- ◎豪雪と過疎高齢化に悩む越後妻有地域(十日町市・津南町)において、2000年から始まった現代アートの芸術祭による地域おこし。
- ◎世界のトップアーティストが自然、廃校、空家など眠れる地域資源を芸術作品に転換。十日町市の魅力を国内外に発信し、交流人口が増大。作品の製作を地域住民と共に進めることで地域の活性化を実現。
- ◎今後、芸術祭のブランドを活用して、衰退した中心市街地や地場産業の活性化につなげるのが課題。

地域資源活用ネットワーク

【NPO等】

- ・大地の芸術祭実行委員会
- ・NPO法人越後妻有里山協働機構

【自治体】

- ・十日町市

【外部企業】

- ・(株)ベネッセホールディングス
- ・(株)アートフロントギャラリー

【地域内外からのボランティア】

- ・こへび隊

【地域集落】

- ・各集落の有志

【海外・アーティスト】

- ・44の国と地域が参加
- ・世界超一流のアーティストが参加

①ジェームズ・タレル(アメリカ)

光と空間を題材とした芸術界の巨匠

②クリスチャン・ボルタンスキー(フランス)

フランスを代表する現代アーティスト

③草間 彌生(日本)

日本を代表する前衛芸術家

④田島 征三(日本)

日本を代表する絵本作家

など310組のアーティストが参加



④学校はカラッポにならない

キーパーソン 北川 フラム 氏
(総合ディレクター)



①光の館



①光の館



②最後の教室
(©H.Kuratani)



③花咲ける妻有
©Osamu Nakamura

これまでの成果

芸術祭のブランド構築、中山間地の交流人口の増大

○市全体が世界最先端の現代アートの会場に



東京23区の広さに367作品が生息
—「大地の芸術祭」過去5回の成果(累積)—
○交流人口 158万人!
(第1回:16万人→第5回:49万人)
※十日町市人口 5万8千人
○経済波及効果 371億円!
(市経済生産額の20%に相当)

○廃校や空家を丸ごとアートに活用



鉢集落の住民の手により、子供達の魂と記憶を流木で表現



古民家と有名陶芸家達との協働作品

○地元住民がおもてなし

集落の人達が作品をガイドし、郷土食をふるまう



地元住民...都会の人達と交流することで刺激を受け、
地域が活性化!

訪れた人達...地元住民との交流で第2のふるさとを発見。
リピーター続出!

今後の課題

- ・芸術祭ブランドを活用して、中心市街地や地場産業を活性化
- ・地域活性を行おうとする若者の機会の提供
- ・芸術祭関連の新商品等の開発による雇用の創出

- ◎北海道では、天然資源や研究シーズを活用した機能性食品素材の開発、さらには多様な商品開発を進める動きが加速。函館地域では、これまで廃棄されてきた「ガゴメコンブ」から抗ガン作用等のあるフコイタンを取り出し、多数の新商品を開発。
- ◎しかし、商品の販売先が域内に限られており、さらに生産量を増やすには、大手企業と連携した知財戦略、共通ブランドの構築や内外への販路開拓等が必要。

地域資源活用ネットワーク

【生産者】

・函館市内漁業協同組合

【支援機関等】

・(公財)函館地域産業振興財団
・北海道立工業技術センター 他

【学術機関】

・北海道大学、はこだて未来大学 他

【自治体】

・北海道、函館市

【産業界】

・地元昆布メーカーのほか化粧品や食品メーカー(※)など多種多様な事業者が参画
※宝ヘルスケア(株)、日糧製パン(株)
(株)バイオクリエイト 等

ガゴメコンブに、**ガン・高血圧・アレルギー等への効果が期待される「フコイタン」が真コンブの2倍以上含まれていることを発見。**

キーパーソン

安井肇 北海道大学教授

(ガゴメコンブの機能性研究、養殖技術の確立等)

北海道経済産業局

・中小企業地域資源活用促進法による支援

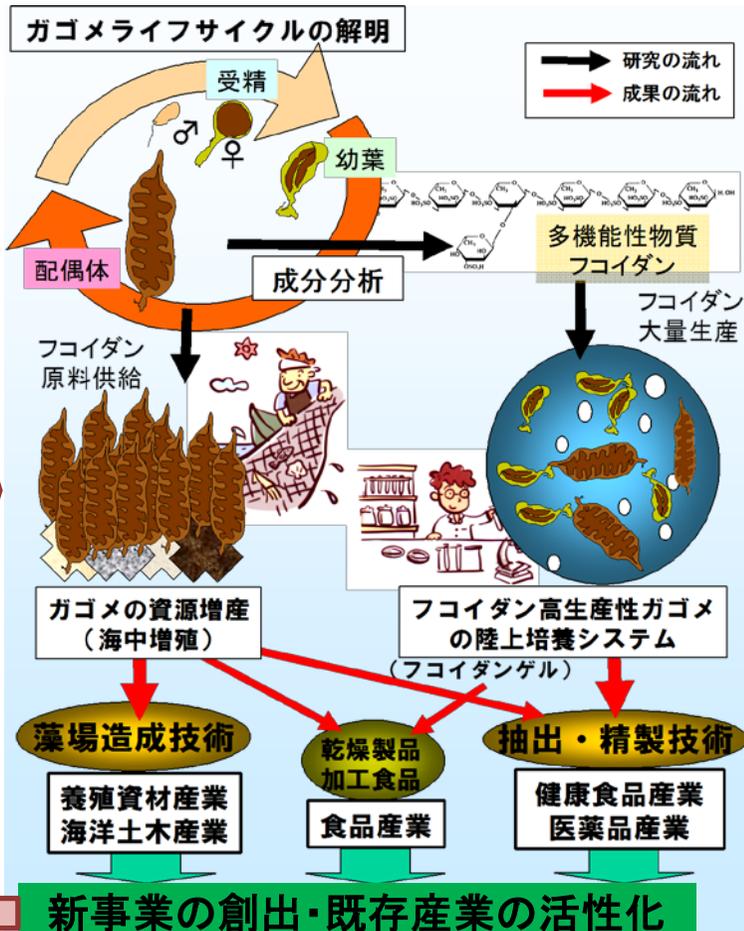
新事業活動・農商工連携等促進支援補助金

事業計画の認定を受けた中小企業者が行う市場調査や新商品開発等に対し、対象経費の2/3、1計画あたり3,000万円程度を上限に補助。

北海道局では、平成19~21年度に4社の計画を認定

(株)ノース技研:曇り止め剤、(株)バイオクリエイト:オーガニック化粧品 等

平成15年以降、函館市内60社、市外(北海道外含む)44社が、新たに**200以上の食品・化粧品等を開発**。その**売上実績は83億円**に上る。



課題

- ・これまでの商品開発や販路開拓は、地元の中小企業の努力によって行われてきたが、個々の中小企業のみでは限界あり。
- ・専門家の力を得てガゴメブランドを構築し、商品開発や販路開拓を進める必要がある。

- 歴史的産業遺産や稼働中の産業施設等を観光資源として活用する「産業観光」は、地域活性化と保有企業の新たなビジネスチャンスにつながり得るもの。
- 近代化産業遺産を認定【平成19年度、20年度】
全国計1,115件（19年度575件、20年度540件）の我が国近代化産業遺産を経済産業大臣認定。それらを地域史・産業史の観点から計66のストーリー「近代化産業遺産群」として公表。
- 産業観光ポータルサイトの構築【平成22年度】
見学可能な産業施設等を検索できるポータルサイトを作成。また、外国人観光客の受入体制が整っている施設については英語版ポータルサイトも構築。

産業観光ポータルサイトの開設



「近代化産業遺産」認定事例



端島(通称:軍艦島)(長崎県)



富岡製糸場(群馬県)



ナリタケ旧製土工場(愛知県)

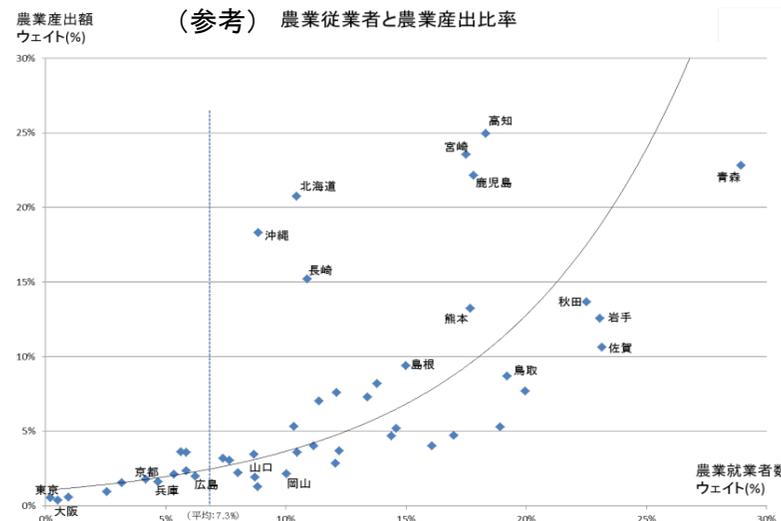
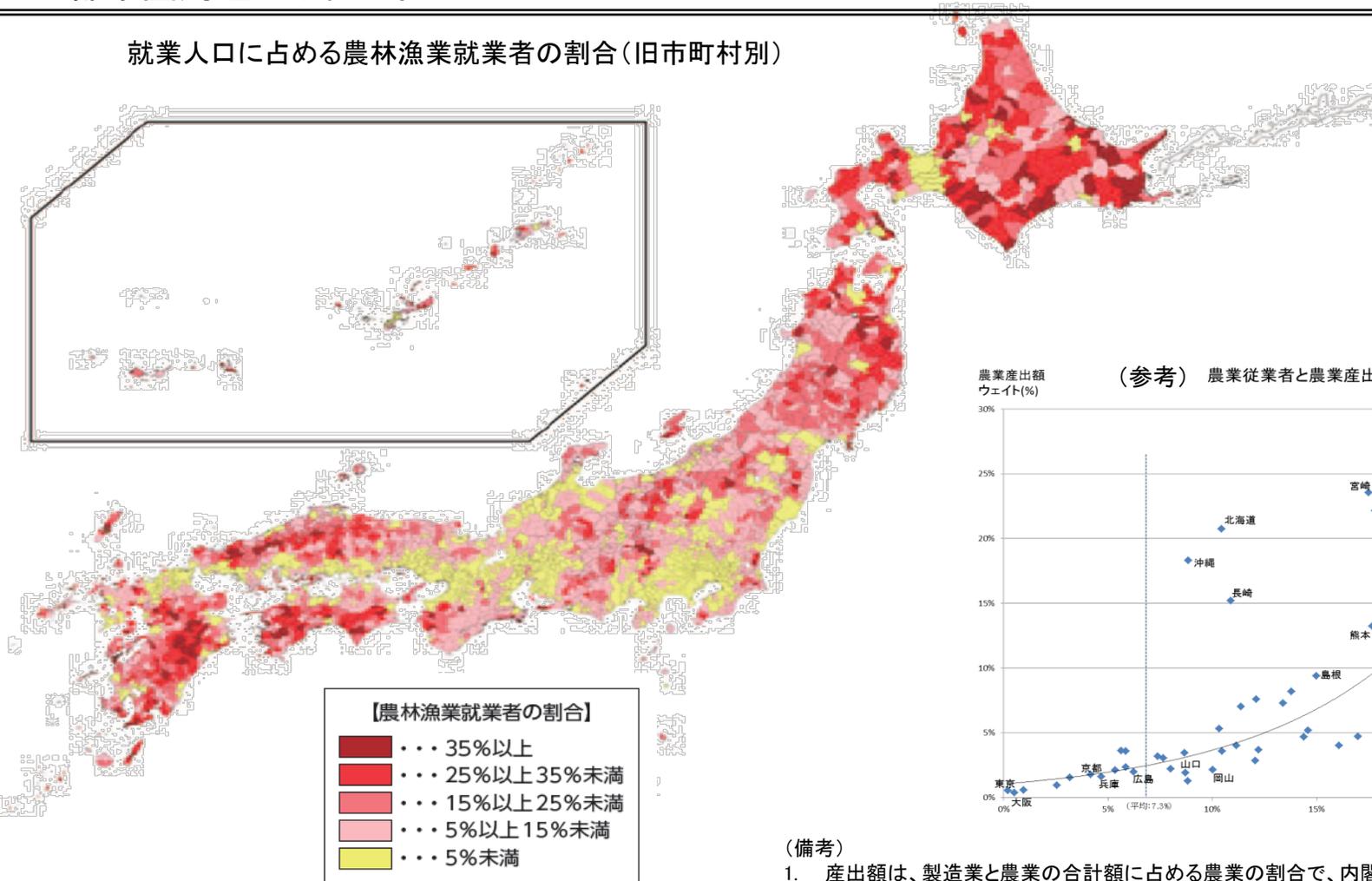


ロゴマーク(「歯車」と「工場等の建造物」をモチーフ)

【参考】地域の基幹産業である農林漁業

- 農林漁業就業者の割合は、北海道、東北、中国、四国、九州などの地方では高く、東京、愛知、大阪のような大都市圏周辺では低い。

就業人口に占める農林漁業就業者の割合(旧市町村別)



(備考)

1. 産出額は、製造業と農業の合計額に占める農業の割合で、内閣府「県民経済計算」による。
2. 従業者数は、全産業就業者数に占める農業就業者数の割合。全産業は「県民経済計算」の就業者数、農業は農林水産省「農林業センサス」の経営者人数と雇用者実人数の合計。
3. データはいずれも2005年の値。

資料:平成24年度食料・農業・農村白書から資料を抜粋